

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2025/10/20

Forex

| | Close | CHANGE |
|-----------|--------|---------|
| USD/THB | 32.84 | 0.33 |
| JPY/THB | 0.2174 | 0.0014 |
| USD/JPY | 150.61 | 0.18 |
| EUR/THB | 38.17 | 0.14 |
| EUR/USD | 1.1655 | -0.0032 |
| USD/CNH | 7.127 | 0.002 |
| SGD/THB | 25.25 | 0.12 |
| AUD/THB | 21.28 | 0.20 |
| USD/INR | 87.97 | 0.14 |
| USD Index | 98.43 | 0.10 |

Commodity

| | Close | CHANGE |
|-----------|----------|--------|
| GOLD | 4,189.9 | -90.3 |
| WTI (Oil) | 57.54 | 0.08 |
| Copper | 10,604.5 | -42.5 |

Stock

| | Close | CHANGE |
|-------------|-----------|---------|
| SET (TH) | 1,274.61 | -16.85 |
| NIKKEI (JP) | 47,582.15 | -695.59 |
| DOW (US) | 46,190.61 | 238.37 |
| S&P500 (US) | 6,664.01 | 34.94 |
| SHCOMP (CN) | 3,839.76 | -76.47 |
| DAX(GER) | 23,830.99 | -441.20 |

Bond

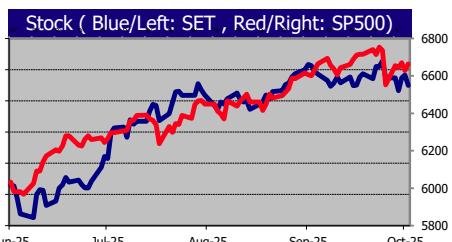
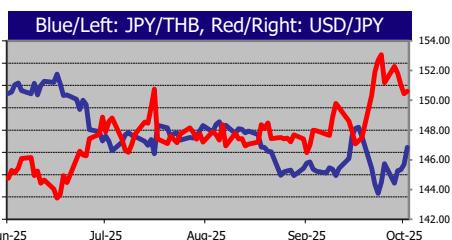
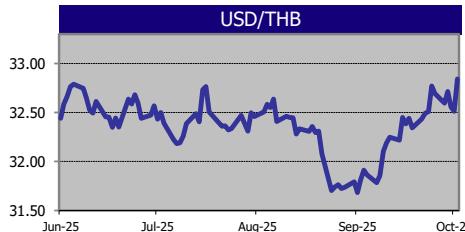
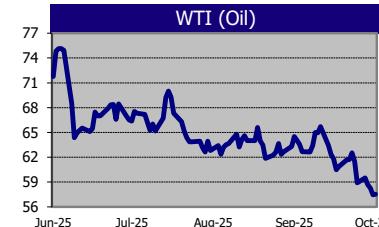
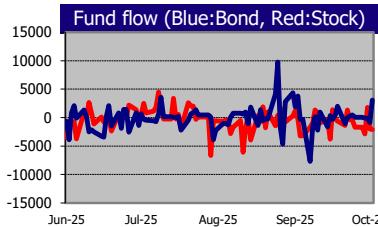
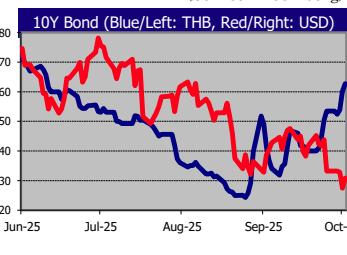
| | Close | CHANGE |
|-----------|-------|--------|
| 5Y (THB) | 1.317 | 0.015 |
| 10Y (THB) | 1.627 | 0.026 |
| 5Y (USD) | 3.592 | 0.045 |
| 10Y (USD) | 4.009 | 0.034 |

Fund Flow (Overseas Investors)

| | Close | CHANGE |
|----------------|---------|--------|
| Stock net flow | (2,098) | -93.9 |
| Bond net flow | 3,060 | 3943.6 |

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルバーツ

17日（金）のドルバーツは32バーツ半ばで取引開始すると、直後はドル買い優勢。その後は米中貿易摩擦の先行き不透明感や米地銀の信用懸念からカリスクオフの様相で昼にかけてドルが売られたが、欧州時間入りから日中かけて反発。その後NY時間では米中貿易摩擦の再激化を巡る懸念がやや後退した事を受けてか、米株高を背景に32.90バーツ付近まで上昇する底堅い推移。午後は週末を控える中、32.70バーツ台後半での方向感乏しい推移が続き、そのままの水準で取引終了。

●ドル円その他

17日（金）アジア時間のドル円は150円台前半で取引開始。序盤はドル買い優勢であったが、その後は米国発の不透明感からドル売り優勢の展開。正午過ぎには節目の150円を割る水準まで下げ幅を拡大し欧州時間に渡った。引き続きリスクオフの様相で一時149円台前半までドルが売られるも、その後150円台前半まで反発。NY時間では関税関連のリスクの後退を受けて150円台後半まで上昇する底堅い推移。午後は週末を控える中、150半ばでの方向感乏しい推移が続き、そのままの水準で取引終了。

Bangkok Dealer's Eye

先週、タイの観光に関するヘッドラインが目立った。コロナ以降、初めて年間外国人観光客数が前年割れとなる可能性が高いとされる中で、「観光関連支出に対する税控除の閣議提出を実施予定」との報道があり、加えて低迷する観光セクターのテコ入れ策として、世界的に活躍するタイ人アーティストを観光大使に起用すると発表したためである。確かにタイ観光・スポーツ省のデータを見れば、今年9月までの外国人観光客数は全体で前年比約▲7.5%となっている。要因としては中国人観光客の大幅な減少（同約▲35%）、に加え、韓国（同約▲18%）、台湾（同約▲9%）といった例年上位に位置する国々でも観光客数が減少していることが挙げられよう。また、インド（同約+15%）、ロシア（同約+10%）、英国（同約+13.5%）、米国（同約+5.5%）といった国々からの観光客は増加しているものの、観光収入については今年8月まで前年対比約▲6%となっており、観光客の減少を単価の上昇で補えていない状況が確認できる。タイ経済が低迷する中に置いて、観光セクターの回復は喫緊の課題である。これからタイが乾季に入り、観光ハイシーズンとなる中で、上記テコ入れ策が機能するかどうか、注視しておきたい。（末廣）